

1 はじめに

広報委員会市民交流部会では、毎年、一般公募により30名程の「市民メンバー」を募集し、月に1回程度のペースで、裁判所・検察庁・弁護士会・刑務所（本年度は府中刑務所）・法科大学院（本年度は中央大学法科大学院）等の司法関連施設の見学会、民事・刑事の裁判傍聴、弁護士との懇談会等を開催し、弁護士と市民の方との直接の交流を通じた広報活動を行っています。

その活動の一環として、2012年11月27日、最高裁判所見学会を開催しました。当日は、21名の市民メンバー、石原修副会長、及び西川達也市民交流部会長ほか6名の広報委員が参加しました。

2 最高裁判所庁舎見学

まず、最高裁判所秘書官の方より、会議室にて、最高裁判所の概要について説明を受けた後、秘書官の方のご案内で、図書館、大ホール、大法廷を見学しました。

高名な建築家・岡田新一氏の設計による最高裁判所庁舎は、まさに「品位と重厚」を体現した空間でした。天井が高くとられた大ホールや大法廷の荘厳さに、市民メンバーからもため息と驚きの声が上がっていました。また、市民メンバーは、図書館に掲げられた絵画や陳列された貴重な資料、ホールに存置されたブロンズ像や法廷のタペストリー等を熱心に見学され、秘書官の方の説明に聞き入っていました。

3 山浦判事との懇談

続いて、第一小法廷に移動し、当会出身で弁護士か

ら最高裁判所に任官された山浦善樹判事より、お話を伺いました。今回は、市民メンバーから募集した質問を事前に山浦判事にお読み頂き、ご回答を含め山浦判事よりお話を頂く形で進められました。

山浦判事は、最高裁判事の仕事の内容や毎日のスケジュール等、最高裁判事になられてからの生活に止まらず、法曹になられた理由、弁護士時代のご経験、就任記者会見の「法律は人を幸せにする道具」という言葉の意味等に至るまで、分かり易く、かつユーモア満載でお話して下さいました。山浦判事の軽妙洒脱なお話しぶりに、市民メンバーも我々引率者も魅了され、あっという間に終了の時間となってしまいました。

個人的には、多様なバックグラウンドを持った各判事が協力して事件処理を進められているとのこととお話と、弁護士時代のご経験のお話が大変に印象的でした。弁護士時代のご経験のお話からは、後進の弁護士に対するメッセージを感得でき、胸が熱くなりました。

4 おわりに

今回の最高裁判所見学会も、これまで同様、大変充実した内容となり、参加された市民メンバーからも多くの反響が寄せられています。見学会の実現にご協力頂きました山浦判事、最高裁判所事務局の皆様には、この場を借りて改めてお礼を申し上げます。

また、今後、一人でも多くの会員の方が、市民の方と直接対話することができ、今回の見学会のような貴重な経験を得ることもできる市民交流部会の活動に、ご関心をお寄せ頂き、さらにはご参加頂ければ幸いです。



山浦善樹最高裁判事（最後列右から7人目）と市民メンバーのみなさん